



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567003004	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(生体と薬、病を治す)		
編集担当教員	丹羽 正美		
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 正美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 正美,山下 康子,田中 邦彦,中川 慎介,池田 正行		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	niwa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部基礎棟4階 第一薬理学教室		
担当教員TEL	095-819-7041		
担当教員オフィスアワー	17:00-18:00		
授業のねらい	人類の科学の進歩における薬の重要性を学ぶとともに、生体の機能と薬の相互関係、日常の嗜好品、麻薬、覚醒剤などの危険性についての理解も深める。モルヒネの詳しい薬効が既に紀元前9世紀から8世紀のホメロスの「オデッセイア」にペンテ「静かな心地よさと幸福感、そして安らかな満ち足りた眠気と睡眠」と記載されている等を学び、長い人間の歴史と薬の発見の過程を洞察する		
授業方法(学習指導法)	講義の概略をまとめた講義ノートを配布し、適宜、スライドをまじえて講義する。		
授業到達目標	治療薬の有効性と生体への効果・作用がかならずしも一致しないことを理解する。薬の有害事象の理解を深める。薬の作用機序を生体機能との関連で説明できる。麻薬の危険性を理解し、社会的位置付けを指摘できる。		
授業内容	<p>概要 人類の科学の進歩における薬の重要性、生体の機能と薬の相互関係、日常の嗜好品、および麻薬、覚醒剤などの危険性を講義する。</p> <p>第1回 薬の誕生/人類の歴史の中で、薬が如何に発見されてきたか。 第2回 薬の使用目的と適用/薬の多様な使用法、治療薬の選択 第3回 薬の効果に影響を及ぼす要因/生体機能と薬の相互作用 第4回 薬の体内動態/種々の生体分子と薬の関わり、薬効と有害事象の発症要因。 第5回 妊娠と薬/胎児を保護する投与方法と、禁忌の薬、妊娠と薬の新たな相互作用 第6回 脳と薬I/心と薬、運動機能改善薬、睡眠と薬 第7回 脳と薬II/神経細胞を保護する薬の開発、アルツハイマー病薬の開発の展望 第8回 生体と嗜好品/保健医薬品などと薬の開発 第9回 薬の乱用/乱用薬物、麻薬などの作用と危険性 第10回 感染症と薬/抗菌薬と抗ウイルス薬の発展 第11回 癌と薬/新しい抗癌剤の開発の方向性 第12回 ホルモンと薬/生体物質としての内分泌性物質 第13回 生活習慣病と薬 /社会生活と疾病、薬の意義 第14回 薬の有害作用/治療薬としての有害事象の種類と発生要因 第15回 創薬</p>		
キーワード	創薬、治療薬、脳と薬、薬の乱用、感染症と薬、癌と薬、ホルモンと薬、生活習慣病と薬、薬の有害作用		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず授業計画にそって、プリント資料・スライド・液晶モニターで講義する。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	毎回行う課題レポート、授業への参加状況等を考慮して行う。		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別指導を		

	行う。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	講義形態であるが、予め課題を適宜設定し、学生との討論を行うことがある。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567003009	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(生体における様々なストレス応答)		
編集担当教員	黒須 洋		
授業担当教員名(科目責任者)	黒須 洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒須 洋, 植田 弘師, 松永 隼人		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	1年、2年、3年、4年		
担当教員Eメールアドレス	ueda@, hkurosu@, hayatom@ @以降はnagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部 分子薬理学教室		
担当教員TEL	095-819-2421 (植田)、095-819-2422 (黒須、松永)		
担当教員オフィスアワー	水曜日 12:00-12:50		
授業のねらい	生物は種固有の寿命を健康的に全うするために、エネルギー代謝の恒常性維持機能を正しく制御するだけでなく、生体に生じる異常を警告として感知する痛み形成システムや脳梗塞のように突発的に生じる危機的なストレスに対応する機能を活用し生命活動を維持している。この講義では生物に備わる機能と様々な疾患がそれらの機能に及ぼす影響を生理学的観点から解説することをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	プリントとパワーポイントを用いた講義形式で行う。		
授業到達目標	1) 生体における異常警告シグナルとしての痛み形成に関わる様々な機構を理解する。 2) 内分泌因子がもつ血糖値などの恒常性維持機構とその制御異常による疾患との関連性を理解する。 3) 脳高次脳機能障害と脳虚血障害における生体応答とその治療戦略を理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	痛みの科学① (担当:植田)	
	2	痛みの科学② (担当:植田)	
	3	痛みの科学③ (担当:植田)	
	4	生体におけるホルモンの機能① (担当:黒須)	
	5	生体におけるホルモンの機能② (担当:黒須)	
	6	生体におけるホルモンの機能③ (担当:黒須)	
	7	エネルギー代謝制御異常と疾患① (担当:黒須)	
	8	エネルギー代謝制御異常と疾患② (担当:黒須)	
	9	エネルギー代謝制御異常と疾患③ (担当:黒須)	
	10	神経伝達物質と高次脳機能障害① (担当:松永)	
	11	神経伝達物質と高次脳機能障害② (担当:松永)	
	12	神経伝達物質と高次脳機能障害③ (担当:松永)	
	13	脳虚血障害① (担当:松永)	
	14	脳虚血障害② (担当:松永)	
	15	脳虚血障害③ (担当:松永)	

	16 試験を予定
キーワード	疼痛メカニズム、脳神経、虚血ストレス、エネルギー代謝
教科書・教材・参考書	参考書: ギャノン生理学 第23版、わかる痛み学
成績評価の方法・基準等	講義に対する積極的な取り組み方ならびに講義への貢献度(50%) 講義に対するレポートあるいは試験(50%)
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	生体の機能を題材として生命科学のトピックを解説する。
学習・教育目標	生体に本来備わる生命活動を維持するための制御機構を題材としてミクロの視点とマクロの視点とから生体の機能を概説できる知識を身につける。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LIVE Campus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金3																										
開講期間																													
必修選択	選択	単位数	2.0																										
時間割コード	20110567003006	科目番号	05670030																										
授業科目名	●生体の機能(皮膚とその病気)																												
編集担当教員	清水 和宏																												
授業担当教員名(科目責任者)	清水 和宏																												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	清水 和宏、鍛塚 大、穉山 雄一郎、原 肇秀																												
科目分類	人間科学科目																												
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																										
教室	[全]429																												
対象学生(クラス等)	全学部																												
担当教員Eメールアドレス	kasimizu@nagasaki-u.ac.jp																												
担当教員研究室	医学部 皮膚科学(長大病院8階)																												
担当教員TEL	095-819-7333																												
担当教員オフィスアワー	金曜日13時から15時																												
授業のねらい	皮膚は外界に接する臓器であり、種々の刺激を受ける可能性の高い臓器である。また内部の変化を反映する臓器でもあり、その反応はしばしば皮膚疹として目で確認する事ができる。担当教官は全員皮膚科専門医であり、無侵襲で確認できる皮膚の変化を講義にて皮膚科専門医が説明し、皮膚の生理、機能を理解してもらう。																												
授業方法(学習指導法)	皮膚科専門医がパワーポイントを使い、実際のケースにおける皮膚疹を提示説明する。質疑応答の結果をふまえて報告レポートを提出してもらい、理解力・問題探求能力・問題解決能力について評価する。																												
授業到達目標	知的活動への動機付けを高め、科学的な思考方法と学習能力を育てる。学生と教員相互のコミュニケーションを図り、ものの見方考え方の多様性を涵養する。																												
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>光線により引き起こされる皮膚病 (清水和宏)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アレルギー性皮膚疾患 1 (原肇秀)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>皮膚の深い話 (穉山雄一郎)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>皮膚癌 (穉山雄一郎)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>水ぶくれの話 上 (鍛塚大)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>帯状疱疹のはなし (原肇秀)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>カネミ油症と皮膚 (穉山雄一郎)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>膠原病の話 上 (鍛塚大)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>アレルギー性皮膚疾患 2 (原肇秀)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>表皮癌の一手前 (清水和宏)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>水ぶくれの話 下 (鍛塚大)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>塗り薬のはなし (原肇秀)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	光線により引き起こされる皮膚病 (清水和宏)	2	アレルギー性皮膚疾患 1 (原肇秀)	3	皮膚の深い話 (穉山雄一郎)	4	皮膚癌 (穉山雄一郎)	5	水ぶくれの話 上 (鍛塚大)	6	帯状疱疹のはなし (原肇秀)	7	カネミ油症と皮膚 (穉山雄一郎)	8	膠原病の話 上 (鍛塚大)	9	アレルギー性皮膚疾患 2 (原肇秀)	10	表皮癌の一手前 (清水和宏)	11	水ぶくれの話 下 (鍛塚大)	12	塗り薬のはなし (原肇秀)
回	内容																												
1	光線により引き起こされる皮膚病 (清水和宏)																												
2	アレルギー性皮膚疾患 1 (原肇秀)																												
3	皮膚の深い話 (穉山雄一郎)																												
4	皮膚癌 (穉山雄一郎)																												
5	水ぶくれの話 上 (鍛塚大)																												
6	帯状疱疹のはなし (原肇秀)																												
7	カネミ油症と皮膚 (穉山雄一郎)																												
8	膠原病の話 上 (鍛塚大)																												
9	アレルギー性皮膚疾患 2 (原肇秀)																												
10	表皮癌の一手前 (清水和宏)																												
11	水ぶくれの話 下 (鍛塚大)																												
12	塗り薬のはなし (原肇秀)																												

	13	皮膚良性腫瘍 (嵯山雄一郎)
	14	膠原病の話 下 (鍛塚大)
	15	太陽光線とのつきあい方 (清水和宏)
	16	予備日
キーワード	皮膚	
教科書・教材・参考書	標準皮膚科学 (医学書院)	
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み (60%) レポートなど (40%) で評価する。	
受講要件 (履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とする。	
本科目の位置づけ	一般教養としての皮膚のしくみやよくある皮膚病の学習	
学習・教育目標	皮膚の解剖、生理を理解し、皮膚病への関心を高める。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	複数の教官で担当するため講義担当日や講義内容の変更がありうる事は容赦願いたい。	

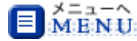


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#) 松尾 成則 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1731秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20110567003002	科目番号	05670030																																
授業科目名	●生体の機能(感覚から脳へ)																																		
編集担当教員	澄川 耕二																																		
授業担当教員名(科目責任者)	澄川 耕二																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	澄川 耕二, 隈上 秀高, 高橋 晴雄, 上松 聖典																																		
科目分類	人間科学科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室	[全]102																																		
対象学生(クラス等)	1年, 2年, 3年, 4年																																		
担当教員Eメールアドレス	sumikawa@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	長崎大学病院麻酔科教授室																																		
担当教員TEL	7367(819-7367)																																		
担当教員オフィスアワー	火曜日 9:00-12:00																																		
授業のねらい	人は、「聞く」「見る」「痛い」などの感覚を通して、外界からの情報を得ている。本授業では、そういった感覚を受け取れる感覚器の「しくみ」と「働き」や、最終的にその感覚を統合する脳との関係を理解してもらいたい。また、そういった感覚が失われたときの障害による影響－ハンディキャップ－の対策や、過剰な感覚－痛み－が及ぼす影響へのケアについても理解してもらいたい。																																		
授業方法(学習指導法)	教科書は用いず、授業計画に沿ったプリントや資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。																																		
授業到達目標	ヒトが生きていく上での感覚とそれを統合する脳との関係の重要性を理解する。また、感覚が失われたことによるハンディキャップや過剰な感覚に対するケアの基礎ができることを目標とする。																																		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>ヒトの五感のしくみと機能を順次解説し、それが失われたとき(ハンディキャップ)や過剰なケアについて説明する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人はどのように音や音楽を聴くか?</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>聞こえが悪いと何が起るか?</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>におい、味がなくなると人はどうなるのか?</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>体のバランス調節のしくみと運動機能</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>体のバランスとその障害</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>眼のしくみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズを使っても大丈夫か?－</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>眼のしくみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>眼のしくみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－レンズ交換可能?</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>眼と傷害－見えなくなる病気はやっぱり恐ろしい－</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか?</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>痛みの心理学的側面</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>痛みを感じる神経系のしくみ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>痛みを和らげ治療する方法</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>癌の痛みと緩和ケア</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終末期医療(ターミナルケア)を考える</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	人はどのように音や音楽を聴くか?	2	聞こえが悪いと何が起るか?	3	におい、味がなくなると人はどうなるのか?	4	体のバランス調節のしくみと運動機能	5	体のバランスとその障害	6	眼のしくみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズを使っても大丈夫か?－	7	眼のしくみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－	8	眼のしくみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－レンズ交換可能?	9	眼と傷害－見えなくなる病気はやっぱり恐ろしい－	10	ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか?	11	痛みの心理学的側面	12	痛みを感じる神経系のしくみ	13	痛みを和らげ治療する方法	14	癌の痛みと緩和ケア	15	終末期医療(ターミナルケア)を考える
回	内容																																		
1	人はどのように音や音楽を聴くか?																																		
2	聞こえが悪いと何が起るか?																																		
3	におい、味がなくなると人はどうなるのか?																																		
4	体のバランス調節のしくみと運動機能																																		
5	体のバランスとその障害																																		
6	眼のしくみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズを使っても大丈夫か?－																																		
7	眼のしくみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－																																		
8	眼のしくみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－レンズ交換可能?																																		
9	眼と傷害－見えなくなる病気はやっぱり恐ろしい－																																		
10	ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか?																																		
11	痛みの心理学的側面																																		
12	痛みを感じる神経系のしくみ																																		
13	痛みを和らげ治療する方法																																		
14	癌の痛みと緩和ケア																																		
15	終末期医療(ターミナルケア)を考える																																		

	16
キーワード	目とカメラ、ロービジョンケア、聴覚、平衡覚、臭覚、味覚、痛みのしくみ、終末期医療
教科書・教材・参考書	参考文献は適宜紹介
成績評価の方法・基準等	レポート(60%)と授業への貢献度(40%)で評価する。
受講要件(履修条件)	原則として全回出席しなければ単位は成立しない。但し、やむを得ず正当な理由で欠席する場合は証明書もしくは理由書を提出すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

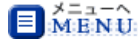


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	月4																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20110567003008	科目番号	05670030																																
授業科目名	●生体の機能(運動器の機能とその障害)																																		
編集担当教員	沖田 実																																		
授業担当教員名(科目責任者)	沖田 実																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	沖田 実,折口 智樹,中野 治郎																																		
科目分類	人間科学科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室	[全]403																																		
対象学生(クラス等)	1年, 2年, 3年, 4年																																		
担当教員Eメールアドレス	mokita@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	保健学科3階																																		
担当教員TEL	095-819-7965 内線(7965)																																		
担当教員オフィスアワー	火曜日 18:00~19:30																																		
授業のねらい	筋肉、神経、骨・関節といった身体運動に関わる末梢器官を総称して運動器といい、その最大の役割は身体運動の遂行にある。しかし、厚生労働省の調査によれば、多くの国民が運動器の痛みを主とした様々な障害に苦しんでいることが明らかになり、このことが日常生活や生活の質の低下を招いているといわれている。つまり、運動器の障害は誰しもが患う可能性を秘めており、その意味も含めて一般的知識として理解しておくことは重要である。そこで、本講義では運動器を構成している筋肉、神経、骨・関節それぞれの機能とポピュラーな障害あるいは疾病を取り上げ、解説を進める。																																		
授業方法(学習指導法)	PCプレゼンテーションを中心とした講義を行う。																																		
授業到達目標	運動器を構成している筋肉、神経、骨・関節の機能・役割ならびに運動器のポピュラーな障害・疾病について理解する。																																		
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>筋肉ってなに？－骨格筋の構造をみてみよう－(担当:沖田)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>筋肉はどうやって動く？－骨格筋の機能をみてみよう－(担当:沖田)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>筋肉を強くするにはどうすればいい？－筋トレーニングのメカニズム－(担当:沖田)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>使わないと筋肉は弱くなる？－筋萎縮のメカニズム－(担当:沖田)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>筋肉痛はなぜ起こる？－遅発性筋痛や肉離れのメカニズム－(担当:沖田)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>神経ってなに？－末梢・中枢神経の構造をみてみよう－(担当:中野)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>神経はどうやって動く？－末梢・中枢神経の機能をみてみよう－(担当:中野)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>神経が傷つくとうなる？－運動障害のメカニズム－(担当:中野)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>神経が傷つくとうなる？－感覚障害のメカニズム－(担当:中野)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>痛みはなぜ起こる？－痛みの発生メカニズム－(担当:中野)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>骨の中はどうなってるの？－骨の構造をみてみよう－(担当:折口)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>骨が弱るとどうなるの？－骨の障害について知ろう－(担当:折口)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>関節ってどうなってるの？－関節の構造についてみてみよう－(担当:折口)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>関節はどうやって動くの？－関節の機能についてみてみよう－(担当:折口)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>関節が傷つくとうなるの？－関節の障害について知ろう－(担当:折口)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	筋肉ってなに？－骨格筋の構造をみてみよう－(担当:沖田)	2	筋肉はどうやって動く？－骨格筋の機能をみてみよう－(担当:沖田)	3	筋肉を強くするにはどうすればいい？－筋トレーニングのメカニズム－(担当:沖田)	4	使わないと筋肉は弱くなる？－筋萎縮のメカニズム－(担当:沖田)	5	筋肉痛はなぜ起こる？－遅発性筋痛や肉離れのメカニズム－(担当:沖田)	6	神経ってなに？－末梢・中枢神経の構造をみてみよう－(担当:中野)	7	神経はどうやって動く？－末梢・中枢神経の機能をみてみよう－(担当:中野)	8	神経が傷つくとうなる？－運動障害のメカニズム－(担当:中野)	9	神経が傷つくとうなる？－感覚障害のメカニズム－(担当:中野)	10	痛みはなぜ起こる？－痛みの発生メカニズム－(担当:中野)	11	骨の中はどうなってるの？－骨の構造をみてみよう－(担当:折口)	12	骨が弱るとどうなるの？－骨の障害について知ろう－(担当:折口)	13	関節ってどうなってるの？－関節の構造についてみてみよう－(担当:折口)	14	関節はどうやって動くの？－関節の機能についてみてみよう－(担当:折口)	15	関節が傷つくとうなるの？－関節の障害について知ろう－(担当:折口)
回	内容																																		
1	筋肉ってなに？－骨格筋の構造をみてみよう－(担当:沖田)																																		
2	筋肉はどうやって動く？－骨格筋の機能をみてみよう－(担当:沖田)																																		
3	筋肉を強くするにはどうすればいい？－筋トレーニングのメカニズム－(担当:沖田)																																		
4	使わないと筋肉は弱くなる？－筋萎縮のメカニズム－(担当:沖田)																																		
5	筋肉痛はなぜ起こる？－遅発性筋痛や肉離れのメカニズム－(担当:沖田)																																		
6	神経ってなに？－末梢・中枢神経の構造をみてみよう－(担当:中野)																																		
7	神経はどうやって動く？－末梢・中枢神経の機能をみてみよう－(担当:中野)																																		
8	神経が傷つくとうなる？－運動障害のメカニズム－(担当:中野)																																		
9	神経が傷つくとうなる？－感覚障害のメカニズム－(担当:中野)																																		
10	痛みはなぜ起こる？－痛みの発生メカニズム－(担当:中野)																																		
11	骨の中はどうなってるの？－骨の構造をみてみよう－(担当:折口)																																		
12	骨が弱るとどうなるの？－骨の障害について知ろう－(担当:折口)																																		
13	関節ってどうなってるの？－関節の構造についてみてみよう－(担当:折口)																																		
14	関節はどうやって動くの？－関節の機能についてみてみよう－(担当:折口)																																		
15	関節が傷つくとうなるの？－関節の障害について知ろう－(担当:折口)																																		

	16 定期試験
キーワード	運動器, 筋肉, 神経, 骨・関節, 機能, 障害
教科書・教材・参考書	教科書等は特に定めない。必要に応じてハンドアウト資料を配付する。
成績評価の方法・基準等	定期考査: 80%, 演習問題: 10%, 授業中の課題に対する積極的な取り組みおよび授業への貢献度: 10%
受講要件(履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とする。
本科目の位置づけ	一般教養レベルとしてわれわれの身体を動かしている運動器の機能や役割を知り, その障害について自身の健康管理にもつながるような視点で理解を深める。
学習・教育目標	運動器の障害は学生自身の身にも起こりうるもので, 健康管理ならびに予防的措置の重要性を理解する。
備考(URL)	http://www.am.nagasaki-u.ac.jp/pt/basic_pt/
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567003007	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(喫煙と呼吸不全)		
編集担当教員	千住 秀明		
授業担当教員名(科目責任者)	千住 秀明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	千住 秀明, 田中 貴子		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	senjyu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 リハビリテーション科学講座		
担当教員TEL	095-819-7963		
担当教員オフィスアワー	月曜日 16時~17時		
授業のねらい	大学生として主体的な学習能力を身につける。 社会人になるためにプレゼンテーション能力を身につける。 喫煙から健康問題を考える		
授業方法(学習指導法)	演習を中心に、文献検索、論文読解能力を教員と伴に学ぶ。		
授業到達目標	喫煙が生体に及ぼす影響を理解し、これからの健康問題について考察できる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション、今後の学習の進め方	
	2	講義:喫煙について	
	3	講義:呼吸不全について	
	4	演習:喫煙習慣が生体機能の機能に及ぼす影響調査 I	
	5	演習:喫煙習慣が生体機能の機能に及ぼす影響調査 II	
	6	演習:喫煙習慣が生体機能の機能に及ぼす影響調査 III	
	7	演習:喫煙習慣が生体機能の機能に及ぼす影響調査 IV	
	8	演習:喫煙習慣が生体機能の機能に及ぼす影響調査 V	
	9	喫煙が生体機能の機能に及ぼす影響について、グループ発表 課題を討議する	
	10	演習:喫煙が生体機能の機能に及ぼす影響について、グループ発表 取り上げられた課題を1つ挙げて各自が分担し、問題解決策を調査・検討する I	
	11	演習:喫煙が生体機能の機能に及ぼす影響について、グループ発表 取り上げられた課題を1つ挙げて各自が分担し、問題解決策を調査・検討する II	
	12	演習:喫煙が生体機能の機能に及ぼす影響について、グループ発表 取り上げられた課題を1つ挙げて各自が分担し、問題解決策を調査・検討する I III	
13	演習:喫煙が生体機能の機能に及ぼす影響について、グループ発表 取り上げられた課題を1つ挙げて各自が分担し、問題解決策を調査・検討する IV		

	14	演習:喫煙が生体機能の機能に及ぼす影響について、グループ発表 取り上げられた課題を1つ挙げて各自が分担し、問題解決策を調査・検討するV
	15	演習:全体討議:喫煙習慣が生体機能の機能に及ぼす影響の理解し、禁煙の重要性を把握する。
	16	レポート提出
キーワード	喫煙 呼吸器 呼吸不全	
教科書・教材・参考書	特に指定しない	
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度、発表、提出された学習資料より総合判定する。	
受講要件(履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567003001	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(循環と血液)		
編集担当教員	前村 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	前村 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前村 浩二, 宮崎 泰司, 蒔田 直昌, 塚崎 邦弘, 泉川 公一, 池田 聡司		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	maemura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	長崎大学病院新外来棟9階		
担当教員TEL	095-819-7288		
担当教員オフィスアワー	16:30-17:30		
授業のねらい	生体の機能、なかでも生体維持の中心でもある循環系に関わる血液、肺(呼吸器)、心臓について生体維持のためどのような働きをしているのか具体的な理解を深める。さらには高血圧症など関連する疾患についてもなるべくわかりやすく解説する。		
授業方法(学習指導法)	血液、呼吸器、循環器疾患の実際の診療に携わっている医学部教官が、それぞれの専門分野について分担して講義します。専門医がせっかく講義するわけですので、病気に関することでも結構ですので、活発な質問を期待します。		
授業到達目標	生体内での循環の仕組み、どのように生体を維持しているかを理解できるとともに、生体の巧妙なメカニズム、不思議さに気づいてもらえればと考えています。また、高血圧症について周囲の人に解説できるようにしたいと思います。		
授業内容	1.血液に関し、血液細胞の種類、その産生秩序と機能、また、血液細胞の一生について解説する。2.肺(呼吸器)に関してガス交換や換気力学などの呼吸機能のみでなく肺の感染防御機能についても講義する。3.心臓の解剖と機能について解説する。4.生活習慣病として頻度が高く、健康に重大な影響を及ぼす高血圧およびメタボリックシンドロームに関し講義する。		
	回	内容	
	1	循環系の概要:心血管系の解剖。生理および働きについて概説する。体循環と肺循環の違いも理解する。	
	2	心臓:心臓および血管系の構造について概説するとともに、その働きに関して理解する。	
	3	心臓:心臓の正常な拍動をもたらす生理機構を概説する。また、不整脈の概要を理解する。	
	4	血液:血液の成分、血球の種類と基本的な機能について概説する。造血とその調節についても理解する。	
	5	呼吸器:ヒトの呼吸器系の構造を概説するとともに、ヒトの呼吸の生理について理解を深める。	
	6	血液:止血機構に関し血小板機能と凝固因子の働きを概説する。また、線溶系の概要、血液凝固機構を理解する。	
	7	呼吸器:呼吸器の病気について概説する。特に、インフルエンザに関する理解を深める。	
	8	呼吸器:呼吸器病に対するタバコの弊害について理解する。	
	9	血液:白血球による免疫の仕組みについて概説する。	
	10	血管:高血圧症の歴史、その定義、心血管病などの合併症、生活習慣の是正を中心とした治療法について概説する。	
11	血液:免疫の異常によって引き起こされる身近な病気であるアレルギー、さらにはエイズについて理解を深める。		

	12	血液、呼吸器の機能についてグループディスカッションを通じて理解を深める。
	13	心臓:心臓および血管系の生理を血行動態より概説し、心血管病に関する理解を促す。
	14	血管:メタボリックシンドロームの概念、心血管病との関連、予防法について概説する。
	15	心臓、血管の機能についてグループディスカッションを通じて理解を深める。
	16	試験
キーワード	血管、心臓、血液、呼吸器	
教科書・教材・参考書	特に指定した教科書はないが、Mader著「human Biology」(McGraw-Hill)は参考書として推薦できる。	
成績評価の方法・基準等	筆記試験で行いますが、出席状況を考慮します。 (筆記試験60%、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況40%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567003005	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(生体と薬、病を治す)		
編集担当教員	丹羽 正美		
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 正美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 正美,山下 康子,田中 邦彦,中川 慎介,池田 正行		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	niwa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部基礎棟4階 第一薬理学教室		
担当教員TEL	095-819-7041		
担当教員オフィスアワー	17:00-18:00		
授業のねらい	人類の科学の進歩における薬の重要性を学ぶとともに、生体の機能と薬の相互関係、日常の嗜好品、麻薬、覚醒剤などの危険性についての理解も深める。モルヒネの詳しい薬効が既に紀元前9世紀から8世紀のホメロスの「オデッセイア」にペンテ「静かな心地よさと幸福感、そして安らかな満ち足りた眠気と睡眠」と記載されている等を学び、長い人間の歴史と薬の発見の過程を洞察する。		
授業方法(学習指導法)	講義の概略をまとめた講義ノートを配布し、適宜、スライドをまじえて講義する。		
授業到達目標	治療薬の有効性と生体への効果・作用がかならずしも一致しないことを理解する。薬の有害事象の理解を深める。薬の作用機序を生体機能との関連で説明できる。麻薬の危険性を理解し、社会的位置付けを指摘できる。		
授業内容	<p>概要 人類の科学の進歩における薬の重要性、生体の機能と薬の相互関係、日常の嗜好品、および麻薬、覚醒剤などの危険性を講義する。</p> <p>第1回 薬の誕生/人類の歴史の中で、薬が如何に発見されてきたか。 第2回 薬の使用目的と適用/薬の多様な使用法、治療薬の選択 第3回 薬の効果に影響を及ぼす要因/生体機能と薬の相互作用 第4回 薬の体内動態/種々の生体分子と薬の関わり、薬効と有害事象の発症要因。 第5回 妊娠と薬/胎児を保護する投与方法と、禁忌の薬、妊娠と薬の新たな相互作用 第6回 脳と薬I/心と薬、運動機能改善薬、睡眠と薬 第7回 脳と薬II/神経細胞を保護する薬の開発、アルツハイマー病薬の開発の展望 第8回 生体と嗜好品/保健医薬品などと薬の開発 第9回 薬の乱用/乱用薬物、麻薬などの作用と危険性 第10回 感染症と薬/抗菌薬と抗ウイルス薬の発展 第11回 癌と薬/新しい抗癌剤の開発の方向性 第12回 ホルモンと薬/生体物質としての内分泌性物質 第13回 生活習慣病と薬 /社会生活と疾病、薬の意義 第14回 薬の有害作用/治療薬としての有害事象の種類と発生要因 第15回 創薬</p>		
キーワード	創薬、治療薬、脳と薬、薬の乱用、感染症と薬、癌と薬、ホルモンと薬、生活習慣病と薬、薬の有害作用		
教科書・教材・参考書	<p>サミュエル H. バロンデス著「心の病気と分子生物学」(日経サイエンス社) Solomon H. Snyder著「脳と薬物」</p> <p>教科書は用いず、授業計画にそって、プリント資料・スライド・液晶モニターで講義する。参考文献は適宜紹介する。</p>		

成績評価の方法・基準等	毎回行う課題レポート、授業への参加状況等を考慮して行う。
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別指導を行う。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	講義形態であるが、予め課題を適宜設定し、学生との討論を行うことがある。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金4																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20110567003003	科目番号	05670030																												
授業科目名	●生体の機能(口の健康と歯科治療)																														
編集担当教員	村田 比呂司																														
授業担当教員名(科目責任者)	村田 比呂司																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 比呂司,大澤 雅博,真鍋 義孝,白石 孝信,添野 光洋,筑波 隆幸,吉田 教明,住田 吉慶,吉村 篤利,山邊 芳久,日高 聖,齋藤 俊行,生駒 明子																														
科目分類	人間科学科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[全]102																														
対象学生(クラス等)	1・2・3・4年次																														
担当教員Eメールアドレス	hmurata@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	歯学部C棟6F																														
担当教員TEL	095-819-7690																														
担当教員オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付けます。																														
授業のねらい	歯を含めた口腔の健康は、われわれの健康維持そして質の高い生活に、重要な役割を果たしています。そのため、口腔内に虫歯、歯槽膿漏など何らかの疾患が生じた場合、歯科医院を訪れます。本授業では、口の健康の重要性と歯科治療を受ける際に理解しておけば役に立つ事項を講義します。																														
授業方法(学習指導法)	それぞれの専門家により、基礎的な歯科知識、歯科医院および大学病院で行われている一般的な治療、および現在大学病院で行われている専門的な治療、先端的な研究を、パソコン等による講義で紹介します。																														
授業到達目標	「口腔の健康の重要性および健康に保つための方法を説明できる」ことを到達目標とします。																														
授業内容	<p>歯科医学・医療はいくつかの専門に分かれています。本授業では、口腔解剖、歯科材料、齲蝕、歯周病、義歯、インプラント、小児歯科、口腔外科、予防、摂食・嚥下リハビリテーションなどの専門家による、わかりやすい講義を行います。また授業の前後に、授業に関する内容のみならず、受講生の歯科に関する相談も受け付けます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2011/10/7 口と歯の構造 真鍋義孝</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2011/10/14 う食の治療法 大澤雅博</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2011/10/21 義歯の話 村田比呂司</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2011/10/28 歯科材料の機能と性質 白石孝信</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2011/11/4 歯科用金属アレルギー 生駒明子</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2011/11/11 人工物で作る歯 添野光洋</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2011/11/18 小児の発達と小児歯科 日高聖</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2011/11/25 咀嚼と健康 吉田教明</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2011/12/2 再生医療とは 住田吉慶</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2011/12/9 歯周病の症状と治療 吉村篤利</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2011/12/16 口の中のがん 河野俊広</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2012/1/6 顎関節の構造と機能障害 山邊芳久</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>2012/1/20 薬と歯科治療 筑波隆幸</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	2011/10/7 口と歯の構造 真鍋義孝	2	2011/10/14 う食の治療法 大澤雅博	3	2011/10/21 義歯の話 村田比呂司	4	2011/10/28 歯科材料の機能と性質 白石孝信	5	2011/11/4 歯科用金属アレルギー 生駒明子	6	2011/11/11 人工物で作る歯 添野光洋	7	2011/11/18 小児の発達と小児歯科 日高聖	8	2011/11/25 咀嚼と健康 吉田教明	9	2011/12/2 再生医療とは 住田吉慶	10	2011/12/9 歯周病の症状と治療 吉村篤利	11	2011/12/16 口の中のがん 河野俊広	12	2012/1/6 顎関節の構造と機能障害 山邊芳久	13	2012/1/20 薬と歯科治療 筑波隆幸
回	内容																														
1	2011/10/7 口と歯の構造 真鍋義孝																														
2	2011/10/14 う食の治療法 大澤雅博																														
3	2011/10/21 義歯の話 村田比呂司																														
4	2011/10/28 歯科材料の機能と性質 白石孝信																														
5	2011/11/4 歯科用金属アレルギー 生駒明子																														
6	2011/11/11 人工物で作る歯 添野光洋																														
7	2011/11/18 小児の発達と小児歯科 日高聖																														
8	2011/11/25 咀嚼と健康 吉田教明																														
9	2011/12/2 再生医療とは 住田吉慶																														
10	2011/12/9 歯周病の症状と治療 吉村篤利																														
11	2011/12/16 口の中のがん 河野俊広																														
12	2012/1/6 顎関節の構造と機能障害 山邊芳久																														
13	2012/1/20 薬と歯科治療 筑波隆幸																														

	14	2012/1/27 う蝕と歯周病の予防 齋藤俊行
	15	2012/2/3 授業の総括 村田比呂司
	16	
キーワード	健康、歯科医療	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しませんが、必要に応じて資料などを配布します。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(60%)および授業への貢献度(40%)により評価します。なお定期試験は記述式とします。	
受講要件(履修条件)	全授業の2/3以上の出席、および定期試験を受けないと成立しません。	
本科目の位置づけ	自らの健康増進に役立てることで。	
学習・教育目標	口腔の健康の重要性および歯科医療を理解することを目的とします。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	疑問点および聞きたいことがあれば、遠慮なく質問してください。	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.